

「わくわくの杜」はこんなところ

「わくわくの杜」も6年目を迎えました。自然あふれる月形・知来乙地区は子ども達にとっては絶好の子育て環境です。近くに道民の森、車で30分の厚田の海、側にはサケを放流する須別都川、周辺の畑や水田、何も遮るものがない180度の空には白鳥等の渡り鳥のV字編隊が見られたりと、豊かな自然の中で子ども達が生き生きと生活しているのが「わくわくの杜」です。もう少し詳しく「わくわくの杜」の保育の様子を質問形式でご紹介しましょう。

Q1. どこにあるのでしょうか？

「わくわくの杜」は、月形町知来乙にあります。廃校となった旧知来乙小学校の建物を利用しています。廃校と言っても新築してから12年ほどで廃校になってしまいましたので、建物は非常に新しいです。そこに、自然体験が出来る施設「ちらいおつ遊び塾」(遊び塾では主に土曜日、日曜日に子ども達の遊び場として一般の皆さんに開放し遊んでもらったり、小学生向けに「ちらいおつ自然体験学校」等を実施したりしています)を設立し、その建物で月曜日から土曜日にわたり、自然体験型保育施設「わくわくの杜」として小さな子ども達の保育をしています。

Q2. どのような保育なのでしょうか？

「わくわくの杜」は、小学校に入学する前の子ども達を、幼稚園教育に準じた保育をする施設です。自然あふれる「ちらいおつ遊び塾」を活動の拠点にし、集団生活を通して人と人との関わりの大切さ、楽しさを感じ、子ども達のコミュニケーションの基礎を築いていきます。自然環境に恵まれていることにより、自然を肌で感じ、その中で伸び伸びと過ごし、さらに木育(遊具は大部分が木製品です)、食育(子ども達手作りの調理)、手育(機織りや木工)、動物の飼育(羊やヤギ、ウサギ等のお世話)を通して子ども達の好奇心・感受性、そして責任感を養います。また年中、年長組の「かがくクラブ」を通して自然への驚き、興味を養っていきます。

季節により、「森の幼稚園」(道民の森等を利用)、「海の幼稚園」(厚田の海を利用)、「川の幼稚園」(道民の森の中を流れている川を利用)を実施し、心と体を豊かなものにしていきます。また、11月、12月は「文化月間」として、近辺の美術館や科学館、博物館を巡って、五感を使つての学びをしていきます。出来る限り本物を手で触れ、目で感じる保育を大切にしています。

Q3. カリキュラムはどの様になっているのですか？

日々の保育は、年間カリキュラム(玄関口に掲示しています)に基づいて、月間カリキュラムと週案を作成して、そのもとで日々の保育にあたっています。各クラスの子どもの目標を次のように考えています。

◎こうさぎ組(未就園児)…初めての集団生活ですので、まずは一日を歌や遊び等で楽しく過ごし、一人遊びをしっかりとすることで心の安定を図ります。そこから少しずつ基本的な生活習慣を身に付けていきます。この頃にはオムツを必要としている子どもが大部分ですので、少しずつ排せつの仕方を学んでいきます。あわてないで、ゆっくりと見て行って下さい。

◎こやぎ組(年少組)…このころから基本的習慣も少しずつ出来る様になり、少しずつ自立心が芽生えて来ます。そのことで排せつ等も自分で出来る様になります。お友達も少しずつ増えて行き、2~3人の小さな集団での遊びが活発になっていきます。また、調理当番や動物当番などを興味本位でして行きながら、少しずついろんな体験を積んで行く時期です。

◎こひつじ組(年中組)…お友達関係も少しずつ数が増えて集団遊びも出来る様になります。何ごとにも積極的に学ぶ姿勢が出来る様になり、いろんなことに興味を示す時期でもあります。話を聞く態度も出来て、静と動のけじめある動きも少しずつ出来る様になります。この時期は様々な体験を豊富にして、知りたいという気持ちを大切にしていきたいと思えます。

◎こぐま組(年長組)…心も体も成長して、年長としてのリーダー性、責任感等の意欲的な取り組みが始まっていきます。自分達で考えて、行うという自発性も生じて来ます。その為に出来る限り子ども達のミーティングを大切にし、一人一人の子どもから出る言葉を大切にしています。茶道や絵本の語り聞かせ等を通して静と動をしっかりと踏まえた行動が出来る様にしたいと思っています。卒園式に行う年長組が主役のオペレッタは、この一年間の子ども達の成長した姿の集大成と考えています。

Q4. 一日の保育は？

一年間のカリキュラムに基づき、保育をしていきます。一日の保育の時間は、朝8時10分には岩見沢をバスが出発し、数カ所のバス停に止まり、その後知来乙に向かいます。9時20分には全員が「わくわくの杜」に揃い、まずは各お部屋で絵本の見たり、歌を歌ったりして過ごします。その後、全員で体操やマラソン(毎日します)あるいはリズムをし、11時頃まで自由遊びをします。調理当番(野菜を切ったりのお手伝い)や動物当番(食事の世話や糞の搬出等のお手伝い)はこの時間にします。11時頃から各クラスに入り設定保育が始まります。12時に昼食、午後1時過ぎには各クラスでの遊びや保育等の活動、午後2時にはおやつを食べ、その後に降園準備をします。午後3時にはバスに乗り降園します。

Q5. 月に掛かる経費はいくらですか？

他園では保育料、バス代、給食費、PTA会費等々の名目で、月に最低2万3千円以上(岩見沢

市内の園)が必要となっていますが、「わくわくの杜」では月に保育料1万8千円(バス代、給食代を含む)のみです。また、他園では施設設備費や教材費、暖房料、入園料、進級維持費等の名目で年間数万円の経費が掛かりますが、「わくわくの杜」では暖房料として11月から3月までの一人あたり月千円が必要なだけです。入園料も必要ありません。

Q6. 就園奨励費はあるのですか？

就園奨励費は毎月支払った保育料がご家庭の所得に応じていくらか返ってくるものです。これは認可されている幼稚園が該当し、「わくわくの杜」のような認可外保育施設には該当しません。

岩見沢市内の認可幼稚園では、最も少ない園で、月々かかる経費は保育料+バス代+給食費+PTA会費+絵本代等で少なくとも2万3千円以上かかっています。それ以外には預かり保育料や年間には入園料(入園時だけですが)、調理保育などの給食費、暖房費、教材費、施設設備費、進級維持費、制服代等の名目で数万円が徴収されます。「わくわくの杜」は月額1万8千円、そして暖房料以外は徴収されていません。月額だけで見ますと少なくとも5千円の差額があり、年間6万円の差額になります。就園奨励費は各ご家庭の所得に応じますので全てのご家庭には当てはまらないかもしれませんが、標準所得家庭では5～6万円がご家庭に戻って来ます。ほぼ「わくわくの杜」の差額の金額と同じになります。

「わくわくの杜」は就園奨励費の制度はありませんが、年間に徴収される入園料はありませんし、給食費や進級維持費や教材費、施設設備費等はありませんので、他の認可されている幼稚園と比較しても若干経費が少ないと考えて頂いてもよろしいかと思っています。

Q7. 昼食はどのようになっていますか？

月、水、金曜日は、子ども達のお手伝いによって調理してくれた「おかず」を食べますので、主食のご飯だけをご用意下さい。火、木曜日は、主に園外保育をする事が多くなります。様々な所に出掛けてそこで昼食を摂りますので「おにぎり」と水筒のご用意をお願いします。冬は園外で食事を摂ることは出来ませんが、お部屋で遠足気分という事で「おにぎり」をご用意下さい。この日には出来る限りお味噌汁を作って出すようにします。土曜日の預かり保育「わくわくランド」は、子ども達手作りの昼食となりますので、昼食の用意は必要ありません。

Q8. 通園バスはどうですか？

バスは北村経由、美唄経由、当別方面と三コースがあります。所要時間は少し長くなりますが、三コース共に細かな道ではなく大きな国道等を走り、ほとんどが真っ直ぐな道であるためそれほど揺れることもなく、今まで体調を崩した子どもはいませんでした。(他園では細かい道を走るためクネクネと曲がったり、何度も交差点等で止まることも多く、車酔い等の体調を崩す場合もあると聞きます)。バスの中では歌を歌ったり、絵本を見たり等と子ども達は楽しく過ごしますので、あっという間に到着しているといった感じです。中には、細かな曲がり角もほとんど無いので、車の程よい揺れで寝ている子どももいます。降園時のバスは、一日の保育の疲れのためか

寝ている子どもが大部分です。この時の数十分の睡眠は、睡眠を十分にとったから夜は寝ないという事もなく、夜には子ども達は案外早く睡眠が出来ているようです。バスの中で寝ることによって生活リズムが崩れるという事はない様です。

Q9. 子どもの様子等の話し合いの場はあるのですか？

子ども達の毎日の保育の様子は、facebook等でお知らせしていますが、一人ひとりの子ども達の様子を保護者の方と一緒に話をする時間はなかなか取れなくて申し訳なく思っています。「わくわくの杜」に来ていただければ、クラスは職員の二人体制で行なっていますので、時間を割いてお話出来ると思いますので、前以て来られる日をお知らせして頂ければ懇談が出来るようにします。また11月頃には懇談月間として、降園後に岩見沢では「ぼけっと」で懇談する場所と時間を用意させていただきます。子ども達はその時には「ぼけっと」で過すことが出来るようにします。また美唄や当別に住んでおられる方はその期間どこかの建物を利用して懇談する方法も考えていますので、様々なことがいつでもどこでも話が出来事を願っています。

Q10. 卒園式の時に演じるオペレッタはどうしてするのですか？

毎年、卒園式の時には、マルシャーク作「森は生きている」を演じます。正しくはその本を元にしてアレンジしたものになっていますが…昨年も「12月の月のおくりもの」という題で演じましたが、名前は違っても「森は生きている」の作品をアレンジしたものです。なぜ「わくわくの杜」でこの作品を演じるかということ、自然あふれた中で保育をしていること、いつも大きな森を見ながら生活していること等々、「わくわくの杜」の立地条件が他の園と違って魅力あふれる場所にあり、子ども達はその自然の中で生々と生活していることです。その喜びを体を使って表現することが出来れば…その思いから出発しました。そしてこの「森は生きている」を毎年演じているのは、毎年内容を難しくしていきながら何年後かには、斉藤公子さんの「森は生きている」の脚本に基づいた劇をしたいと思っています。そこに至るにはその年の子ども達の力とか、スタッフの力とか全てが大きな力をつけた時に初めて出来るものと思います。そしてその年に身に付けてきた力を、この卒園式の日披露して貰いたいのです。毎年少しずつ劇の中身は変わり、いつも新鮮なものになっていくと思いますが、何年後かには子ども達で斉藤さんの脚本全編が演じられれば…そのような夢を子ども達と持ちながら毎年毎年力を付けて行きたいと思っています。

Q11. 預かり保育はあるのですか？

岩見沢方面の子ども達には、市内に同法人の託児所「ぼけっと」がありますので、そこに午後4時頃にバスは到着しますので、それ以降に預かり保育が必要な方は「ぼけっと」をご利用していただいています。なお、「ぼけっと」のご利用時には別途料金が必要となります。

美唄、当別方面には現在そのようなところがありませんので、これから必要な方は美唄、当別で行なっている託児所をご利用していただくこととなります。利用者が多くおられるようなら、その託児所と連携をとり、バスを託児所近くに止めるということも検討させていただきます。

